

日本鐵鋼協會記事

理事會 12月5日(水曜日)午後4時30分開會 **出席者** 服部 漸君 河村 驍君 俵 國一君 渡邊三郎君 香村小録君 鹽田泰介君 **協議事項**、(a) 第四回講演大會殘務整理に關する件 (b) 事務員赤羽朝彦病氣の爲退職申出に付き後任者として霜鳥爲三郎採用に關する件 (c) 萬國工業會議より依頼の開催次第書を本會に於て印刷し會員一般に配布方に關する件(承諾可決) (d) 入退會者承認以上の通りにして午後7時閉會す。

編輯委員會 12月5日(水曜日)午後5時開會 **出席者** 川上義弘君 田中清治君 室井嘉治馬君 鹽澤正一君 **協議事項** 1. 會誌「鐵と鋼」第十四年十二號上掲原稿選定の件にして午後7時閉會す。

事務員更迭 本會事務員赤羽朝彦君は大正13年5月以來本會々計事務に従事し大正14年7月「鐵と鋼」發行人兼編輯人となり。事務に精勵中這般來腦神經衰弱に罹り職に耐えず11月中退職願出に付き12月5日理事會にて承認したりたるも事務引繼ぎの爲め12月20日迄で出勤、後任者霜鳥爲三郎12月4日より出勤し事務引繼ぎを始めたり。

編輯人兼發行者變更 右は赤羽朝彦名儀なる處今般退職に付き編輯事務員村松橋太郎に名儀變更警視廳に昭和3年12月12日、附を以て届出でたり。

日本鐵鋼協會第四回講演大會概況報告 第一報

今上陛下御即位の大禮を擧げさせられた目出度き昭和3年秋11月24日より28日迄5日間本會第四回講演大會を我國工業の中樞たる大阪に於て開催することに決し、京大教授齋藤大吉博士を實行委員長として、かねて計畫せられたる豫定に従ひ講演大會竝に工場見學を舉行せり。大會中諸事計畫通り順調に終始し天候の良好なりしと共に本會講演大會に未だ見ざる盛況を呈せり。これ實に大阪鐵工業同業組合の多大の御援助と諸官廳諸會社の熱心なる御盡力の賜にして本會の深く感謝するところなり。次に大會の概況を記述すべし。

第1日 11月24日 講演會

大會第1日は大阪市四ツ橋々畔に聳立する大阪實業協會會館にて開催せり。會場は實行委員の周到なる用意に依り萬端調ひたり。定刻午前9時前より全国各地より會員續々到着し其數250名に及びに會員外の聴講希望者を加へ300名以上の來會者を見、講堂は満員の盛況なりき。

劈頭服部會長の挨拶に次ぎ實行委員長齋藤博士別項記載の開會の辭を述べられ引續き講演に移り齋藤博士司會の下に堀切政康氏の講演を初めとして澤村宏氏、渡邊博士を司會者として齋藤豊三氏、三

島徳七氏の有益なる研究發表あり。次で裕姓錳鑛公司經理 盧成章氏「鐵鋼事業の日支關係」につき英語にて講演あり、終つて午後1時迄會員相互の歡談裡に午餐休憩をなし午後更に鹽田博士司會の下に瀬戸靜夫氏、田中清治氏、田上禎吉氏、松山寛慈氏の講演、島岡亮太郎氏司會者として西津靄吉氏山田福治氏、大石源治氏、村上武次郎氏の熱心なる研究發表あり、何れも多大の感動を與へたり。かくて午後5時盛會裡に第1日の講演を終れり。

通 俗 講 演 會

11月24日 大會第1日講演會終了後同夜午後6時30分より大阪毎日新聞社の後援に依り大阪毎日新聞社講堂に於て鐵鋼に關する通俗講演會を開催せり。先づ會長服部博士の閉會の辭に次で八幡製鐵所技監野田鶴雄博士は「本邦鐵鋼需給の現況と將來」に就て統計圖解に依り明快なる講演あり更に京大教授齋藤大吉博士は「鐵鋼材の種類と其の用途との關係」と題し興味ある講演をなし何れも工業の大大阪市民にとり時節柄誠に適切なる意義深き問題を平易且詳細に説明せられたり。この外八幡製鐵所の作業狀況、漫畫鐵公物語等の活動寫眞を映寫し谷口工學士の快辯を以て説明あり一般會衆に多大の實益と感動を與へたりかくて午後10時30分大會實行副委員長加藤榮氏の閉會の辭まで會場立錐の餘地なく盛會裡に散會せり。茲に有益なる御講演なされた野田齋藤兩博士に映畫の御説明された谷口工學士に厚謝すると同時に本會の爲め映畫フィルム御貸與された八幡製鐵所、會場貸與された大阪毎日新聞社に厚謝す。

第 2 日 11 月 25 日 講 演 會

大會第2日は前日に引續き大阪實業協會々館に於て行ひたり。此日天氣快晴にして加ふるに日曜日とて第1日に増したる聽衆ありて盛況なりき。

先づ服部會長の挨拶ありて今泉嘉一郎博士司會の下に大屋正吉氏の講演を初として平井要氏、佐々川清氏の研究發表あり、次で大石源治氏司會者として海野三朗氏、小藪重行氏、井口庄之助氏引續き何れも有益なる講演ありて午前の豫定を終了せり。午後0時10分より一同晝食を共にし午後1時10分より午後の講演に入り金子恭輔博士司會の下に中村道方氏、井上克巳氏、蒔田宗次氏の研究發表あり。次で會長服部博士司會の下に高橋源助氏、松下徳次郎氏、本多光太郎氏の順序に何れも有益なる最近の研究を發表せられ聽衆に多大の感動を與へ豫定の講演を無事終了せり。最後に服部會長立ちて別項記載の如き閉會の辭を述べられ盛會裡に散會せり。終りに臨み有益多趣の御研究及御所見を本會の爲御發表くだされたる講演者諸氏と司會の勞を執られたる各位に對し茲に深く感謝す。

晚 餐 會

第2日講演會終了後午後6時30分より大阪市田箕橋大阪ビルデング食堂に於て懇親晚餐會を催せり。出席者來賓會員を合せ約80名にして盛況を呈せり。宴酣なる頃服部會長立ちて挨拶をなし來賓を代表して永井氏の謝辭あり、次で會長の指名に依り今泉博士立ちて最近我國に於ける鐵鋼に關する進歩を稱揚せられ同時に學術方面と共に一層實地に關する問題の研究討論を希望せられたり。このこ

とは更に野田博士、齋藤博士に依り附言せらるゝところありたり。其他久保田氏、朝倉氏、栗本氏、百々氏等の談話ありて歡興盡くる處なかりしも午後 9 時宴を閉ぢたり。

第 3 日 11 月 26 日 工場見學

定刻午前 9 時前より續々汽車製造株式會社に參集、數班に分れ電氣室、組立工場、鍛盤工場、製罐工場、薄板工場、梁工場、鑄物工場、壓搾鍛工場、道具工場、機械工場、各種試験室を巡覽せり。特に組立工場に於て折柄組立中なりし大型汽關車は極めて近接の位置にその構造竝に製造上の苦心を目撃するを得一同興味を以て見學せり。終つて設けの休憩室に入り社長代理より懇篤なる歡迎挨拶あり本會を代表して渡邊博士より鄭重なる謝辭ありたり、午前 10 時會社を辭し隣接住友製鋼所に到る。先づ同製鋼所事務所階上の休憩室に全員の集合するを待ち取締役荒木氏より工場の大要竝に見學の順序等につき懇切なる説明あり。それより外輪磨耗試験場に到り同所齋藤博士より「外輪對軌條の磨耗試験に就て」詳細なる説明を受け數班に分れ夫々案内者に導かれ第 1 製鋼工場、第 1 鑄造工場、成品工場、第 1 鍛盤工場、第 1 鍛壓工場、外輪工場、第 1 車輪工場等を見學せり。特に外輪製造の概念を得ると共にその迅速精巧なる製造法に對し一同珍しく感ぜり。次に同所の配慮に依る 3 隻の小蒸氣船に分乘し住友倉庫に赴く。先づ大阪築港第 1 繫船岸に於て折柄の荷役の實況を見、次で順次に倉庫内を巡覽の上屋上に登り支配人より同倉庫建築の概要を説明せらる。一同規模の宏大なると水陸運輸の至便なるとに愕けり。終つて岸壁繫留中のアメリカ丸甲板にて住友製鋼所の厚意に依る午餐を受けたり。食後第 1、第 2 兩班に分れ 2 隻の小蒸氣船に便乗の上各見學所に向へり。

第 1 班

小蒸氣船にて日本ゼネラルモーターズ會社に到着す。第 1 班會員約 90 名暫時休憩の上エナメル工場、荷揚場、車體組立場、デューユ部、内張裝具工場、試運轉場等の作業を實見し最新式工場管理に依る作業行程の順序整然たるに一同興味を以て巡覽せり。同社は既に過去 20 ヶ月に 17,000 臺の乗用自動車及び貨物自動車を製産せりと言ふ。工場見學を終りて再び休憩室に入り此處にて同社廣告部長の通譯にて同社専務取締役より挨拶として同社の經營管理法を詳説し將來内地産材料を出来る限り使用する方針なることを説明せられこれに對し鹽田博士は一同を代表して謝辭と希望を述べられ茶菓の接待を受け同社を辭したり。

次で一同は市電にて栗本鐵工所に到り茶菓の接待を受け暫時休憩の上工場の見學をなす。大管、中管、小管の直管工場、異形管工場、熔解工場等を巡覽し一同鐵管専門の同工場設備竝に技術の熟練に感服せり。かくて午後 4 時 30 分鄭重なる御配慮を感謝しつゝ同社を辭し散會せり。

第 2 班

第 2 班會員約 70 名大阪製鐵株式會社に到着、専務取締役大出善一氏の歡迎の挨拶あり會員を代表し鶴瀨氏謝辭を述べらる。それより 4 班に分れ製鋼、製條工場等を案内せらる。同社主要成品たる條鋼壓延の狀況は良く僅少なる人員を以て間斷なき作業振を發揮し居らるゝに對し一同感嘆せり。次で

同社よりダツト自動車會社に到り後藤氏より工場の概要を聴取したる上鑄物工場、焼入工場、旋造場、組立場、試験場、材料倉庫等を巡覽す。同所は創立日尙淺きに不拘製造上の苦心研究の結果特種材料を除く他は悉く國産品を以て月製 10 臺余の組立發賣を實施し而も品質に於て同業者中最優秀を以て評せらるゝと聞きたり。以上にて第 3 日の工場見學は無事豫定通り終了し午後 4 時散會せり。

第 4 日 11 月 27 日 工 場 見 學

定刻午前神戸製鋼所本工場に參集、事務所に於て社長の鄭重なる歡迎の挨拶に次で工場の沿革及び事業の説明を聴取後、數班に分れ先づ製鋼工場に入り鋼鑄物場、熔解場を巡覽の後鑄鐵工場を経て機械工場、組立工場を見學せり。次で協濱工場に案内せられ海濱近く建てられたる製鋼工場に入り平爐熔解作業を巡覽の上、伸延工場に到り小形丸棒鋼の製作實況を見學せり。規模整然たるものにてこれ等の見學にもよく時刻を計りて觀覽せしめられたるは感謝に堪えざる所なり。午前 10 時 30 分協濱工場を出て約 10 分間徒歩にて川崎造船所葺合工場に到り設けの天幕に入り一同休憩、數班に分れ案内せられ先づ製鋼工場に入り平爐作業を見學せり、當所平爐の一、二のものは裏壁の傾斜せる形式のものにて一同興味を感じたり。次で厚板工場に到り鋼塊の壓延せられ切斷さるゝ様を見たる後、第 2 薄板工場を経て再び同所に設けられたる休憩所に入り川崎造船所及び神戸製鋼所より提供せられたる中食をとり小田切所長兩社を代表して懇切なる歡迎の辭を述べ次に會長の鄭重なる謝辭ありたり。食後豫め用意されたる貸切電車に分乗、第 1 班、第 2 班に分れ第 1 班は尼ヶ崎に下車、第 2 班は大阪に向へり。

第 1 班

第 1 班約 80 名久保田鐵工所尼ヶ崎分工場に到着、同事務所前に設けられたる天幕に休憩し久保田社長より歡迎の挨拶に次で工場の沿革及び事業の計畫等懇切なる説明あり、直ちに數班に分れ工場に案内され第 1 鑄造場に到り階上より特殊のモールデングミル及びブコアミルを一同珍しく巡覽せり。同所を辭し渡船に依り隣接せる住友鋼管株式會社尼ヶ崎工場に赴き先づ製鋼工場に到り平爐作業を見たる後伸延工場、成品貯藏工場を経て鋼管引拔場に到り本邦に於ける斯業第 1 位の鋼管引拔の實況を目撃せしは一同等しく興味を感じたり。最後に同所事務所に設けられたる休憩室に入れば各種製品の陳列ありて一見當工場に關する知識を會得せしめられたり。全會員集合したる時春日支配人の懇切なる歡迎の挨拶について當工場經營の大要を述べられ終つて會長より鄭重なる謝辭あり。當社より供せられたる茶菓の饗應に興り午後 4 時 30 分豫定通りの見學を終り一同非常の満足を以て散會せり。

第 2 班

第二班は會員約 70 名陸軍造兵廠大阪工廠に到着先づ設けの休憩室に於て三輪工廠長より大阪工廠の沿革より現況竝に作業の一般につき詳細なる説明あり、引續き數班に分れ各工場に案内せらる。流石に官營工場の事とて工場内の整頓され整然たる作業振に一同感嘆せり。各工場ことに砲身の自己緊捲工場、製鋼場、鍛工場、彈丸工場に於ては夫々各掛員より詳細なる説明を受けたり。一同珍しく自

已緊搾設備を見又製鋼場にては折柄作業中の自己緊搾砲身用鋼材の熔製法を實地に見學し得る處甚だ多かりき。かくて午後 4 時 30 分多大の感謝を以て同廠を辭し散會せり。

第 5 日 11 月 28 日 工場隨意見學

11 月 27 日を以て正式の大會を終り本日は隨意に見學を行ふ事にしたるに昨日に劣らざる盛況なりき。日本電力株式會社尼ヶ崎發電所、株式會社日本可鍛鑄鐵所、大阪製煉株式會社、造幣局、小鹿皮革工業所、株式會社日本鑄工所、株式會社大林組工作所へ夫々希望會員多數に參集何れも熱心に見學せり。各工場に於ては色々懇切なる御配慮竝に案内を致され一同得る所誠に多く有意義の一日を過し御好意を感謝しつゝ盛會裡に散會せり。

閉會の辭 (第 2 日講演會終了後)

會長工學博士 服部 漸

これで本日の講演會を終ります。昨日より 2 日間に涉り豫定のプログラム通り講演者諸君が各々研究された事を御發表下されたことは感謝に絶えませぬ。只時間の短かいために折角の御研究になつたことを充分御發表出来なかつたことは遺憾であります。よく簡単に分り易く話されたことを感謝致します。尚諸君の勤務先の官廳竝に會社でこれだけの御發表を御許し下さつたことは鐵鋼協會として感謝致します。尚會場を 2 日間に涉り充分に使用することを御承認下さつた鐵工業同業組合の御盡力を感謝致します。尚本回はかくの如く集まれ盛會であつたことは會員諸君の熱誠に依ることであるが御當地にて大會準備委員及び實行委員の周到なる御配慮に依ることと會員一同に代り感謝致します。明日からの會合及工場見學にも同様の盛會を希望致します。これで講演會を終ります。

(齋藤委員長報告)

第四回講演大會開會の辭 大會實行委員長工學博士 齋藤 大吉

私は當地方に於ける本大會の實行委員を代表して簡単に開會の御挨拶を申述べます。

此度京都市に於て御即位の大典を擧げさせられました本月を卜し我が日本鐵鋼協會が第四回講演大會を我邦工業の中心地たる此大阪市に開會するに至りましたことは誠に其時機を得たるものでありまして工業中の基礎工業たる製鐵業乃至加工業を指導する立場にある我が協會が阪神地方との關係を益々密接にし昭和の御代の彌榮へますと共に益々隆昌に赴く機運を造るものであると申して差支ないと考へます。此意味に於て私は諸君と共に本協會の將來を祝福したいと思ひます。

當地方にある私共實行委員は東京本部の命を受けて此數箇月間各般の準備に當つたのでありますが私共の微力なる故諸君の期待に背くこと定めて多かるべきを恐れて居る次第であります。夫れにも拘らず斯く多數の有力なる講演者諸君を得同時に遠近各地から會員諸君の熱心なる御參會を得ましたことは私共の非常の光榮として感謝致して居る次第であります。

尚ほ講演者諸君に一言しますが日程で御覽の通り今明兩日に互つて諸君の日頃御研究になつて居る事項に付御發表を願ふのでありますが何分此短時間に 25 人の御講演を願ふ譯でありますから兼て申

上げてあります通り不本意ながら御一人前の時間を 25 分以下に制限することになりました、此點惡しからず御諒承を願ひます。就きましては御講演終了の 5 分前に短いベルで豫告し 25 分の時に長いベルで御知らせ致しますから其時は直に御止めを願ひます。

終りに一言致したいのは此度此大會を當地に開くに當りまして大阪鐵工業同業組合の諸君は非常の好感を以て之を後援され又大阪毎日新聞社は通俗講演會の開催に付て多大の好意を寄せられ其他住友製鋼所を始め見學を御願しました各官衙、會社等が非常の好意を以て便宜を圖つて下さることに對し茲に滿腔の謝意を表して置きます。

第四回講演大會實行委員長並副委員長よりの大會經過報告

第四回講演大會を當大阪市に開催せらるる事を企畫せらるるに當り準備委員長同副委員長の依囑を承けたるに付 3 月 26 日本部に於て河村理事と共に其大綱を協議し次で 4 月 26 日本大會に委員を依頼すべき方面又は會場借用等其の援助を受ける必要ある代表者を大阪ビルヂング食堂に招じ本大會プログラムを提示し之が實行の爲先づ委員を出す事に付承諾を得たり、次で各委員を 5 月 5 日住友俱樂部に會合し (1) 大會プログラムに付き (2) 各委員の分擔事項を定むる事、を協議せり。依つて各委員は其の準備に着手す、然して 6 月 15 日更に第 2 回打合せ會を住友俱樂部に招致し (1) 準備遂行に關する委員報告 (2) プログラムの訂正 (3) 本部より送附の案内狀等に付協議せり。第三回打合せは 9 月 24 日住友俱樂部に於て (1) 本部より送附せしプログラム案に就て (2) 各委員の擔任事項の報告又は希望 (3) 通知宣傳の方法 (4) 實行豫算等を打合せたり。第四回打合せは 11 月 19 日住友俱樂部に於て (1) 本部との交渉報告 (2) 委員の擔任事項の報告 (3) 交渉係より實行委員へ引繼事項 (4) 會計豫算額の分配 (5) 本部委員と事務打合の事 (6) 其他會場等の準備に就て協議を爲せり、11 月 23 日主なる本部役員の御出席を求め第 5 回打合せ會を開き準備の遺憾なきを期し 11 月 24 日愈大會を實業協會々館に開くに至れり。講演大會出席申込者は 278 名にして第 1 日の出席者 226 名、第 2 日は 249 名にして會員外聽講者兩日共約 30 名なり。通俗講演會の如きは實に滿場立錫の餘地なき盛會裡に講演會を終了し引續き豫定の工場見學研究部會等何れも豫期以上の成果を收め加ふるに本講演會を機として入會者増加し且當地方に於ける鐵工業組合との關係も親善を加へたるは御同慶に堪ず、之一つに本部各役員の周到なる御注意と其の實行に當る各委員の最も熱心なる努力の賜にして深く感謝する次第なり。(加藤副委員長報告)